弥生時代

名前

問1　兵庫県神戸市の桜ヶ丘町などで出土した、釣り鐘のような独特の形をした弥生時代の青銅器について述べた文として、最も適切なものはどれですか。なお、この青銅器の表面には、当時の生活の様子や幾何学的な文様が描かれていることがあります。（2021年 大阪府公立入試 類似）

1. 縄文時代の集落で見つかる、魔除けのために作られた土偶である
2. 古墳の副葬品として納められた、馬に装着する鉄製の装具である
3. 魏の皇帝から邪馬台国の女王に贈られたとされる銅鏡である
4. 狩猟や農耕の様子が描かれた、祭祀に用いられた銅鐸である

問2　稲作が朝鮮半島から伝わり、人々の生活が変化した時代に使用された道具の説明として、最も適切なものはどれですか。（2018年 北海道公立入試 類似）

1. 豊作を祈る祭りなどのために、青銅器である銅鐸が使われた
2. 権力者の墓の周囲に並べるために、埴輪が作られた
3. 日本独自の貨幣として、富本銭が発行された
4. 魔除けや食物の豊かさを祈り、土製の人形である土偶が作られた

問3　紀元前後に位置する東アジアの歴史を記した年表において、1世紀半ばに日本の「倭」の中にあった「奴国」の王が、ある中国の王朝に使節を送り、その証として金印を授けられたという記述があります。この時、奴国の王が使節を送り、金印を授かった王朝の名称として正しいものを選択してください。（2025年 愛媛県公立入試 類似）

1. 漢（後漢）
2. 隋
3. 秦
4. 魏

問4　西暦57年から16世紀末までの歴史的な出来事をまとめた年表において、3世紀の項目に「倭の女王が魏に使いを送る」という記述があります。この時、女王卑弥呼が中国の王朝と外交関係を結んだ主な背景や目的として最も適切なものはどれですか。（2019年 茨城県公立入試 類似）

1. 中国で確立されていた律令制度を学び、天皇を中心とした中央集権国家をいち早く形成するため
2. 鉄資源を独占するために、朝鮮半島南部の任那（加羅）に日本府を設置する許可を得るため
3. 仏教を正式な国教として導入するために、大陸から僧侶を招き、寺院建設の支援を受けるため
4. 中国の皇帝から王としての地位を認められることで、国内の統治や周辺諸国との関係を有利に進めるため

問5　弥生時代に大陸から稲作とともに伝わった金属器のうち、硬くて鋭利な特徴を活かして、木工具や農具、武器などの実用的な道具として広く普及したものは何ですか。（2016年 大阪府公立入試 類似）

1. 青銅器
2. 土器
3. 鉄器
4. 石器

問6　弥生時代に大陸から稲作が伝わると、収穫のための道具として磨製石器の一種が広く使われるようになりました。中央に2つの小さな穴が開いた半月形の形状をしており、稲の穂先のみを摘み取るために使用されたこの道具の名称を選びなさい。（2024年 秋田県公立入試 類似）

1. 尖頭器
2. 鉄鎌
3. 磨製石斧
4. 石包丁

問7　弥生時代には青銅器と鉄器がほぼ同時に日本列島へ伝わりました。それぞれの金属器が果たした役割の違いについて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2020年 沖縄県公立入試 類似）

1. 青銅器は前方後円墳に埋葬するための副葬品として作られ、鉄器は神社の建築のために使われた
2. 青銅器は加工のしやすさを活かして農具や工具として普及し、鉄器は主に祭りの道具として使われた
3. 鉄器は定期市での取引を円滑にするために使われ、青銅器はイスラム教の礼拝の道具として使われた
4. 鉄器は鋭さや硬さを活かして農具や武器などの実用に供され、青銅器は主に祭りの道具として使われた

問8　弥生時代の遺跡から発掘される人骨に見られる特徴のうち、当時の社会において集落間の対立が激化したことを示す根拠として正しいものはどれですか。（2022年 沖縄県公立入試 類似）

1. 人骨の周囲に、祭祀に用いられたと考えられる銅鐸や銅剣が大量に並べられていること
2. 骨に武器による殺傷跡があったり、本来あるはずの頭部がない状態で発見されたりすること
3. 骨の成分分析から、家畜の肉を主食としていたことが判明し、獲物の奪い合いが推測されること
4. 人骨が、身分に応じた大きさや形の異なる前方後円墳などの古墳から発見されること

問9　1世紀に倭の奴国の王が中国の後漢へ使者を送り、光武帝から金印を授かった背景として、当時の小国の王たちの目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2023年 大阪府公立入試 類似）

1. 遣隋使や遣唐使のように、進んだ律令制度を学び取り、日本独自の憲法を制定するため。
2. 仏教などの新しい宗教を中国から導入し、国民の精神的な団結を図るため。
3. 中国の皇帝から地位を認められることで、自国の権威を高め、周囲の国々に対して有利に立つため。
4. 中国からの軍事支援を直接受け、近隣諸国を武力で一気に統一しようと考えたため。

問10　大陸から稲作の技術が伝わったことで、人々の生活や集落の様子は大きく変化しました。この時期の集落において、収穫した食料を管理・保存するために設けられた特徴的な施設として適切な名称を選びなさい。（2021年 岡山県公立入試 類似）

1. 前方後円墳
2. 環濠集落
3. 高床倉庫
4. 竪穴住居

問11　3世紀頃の倭国において、邪馬台国を中心に30ほどの国々をまとめ、中国の魏から「親魏倭王」の称号や金印を授けられた人物は誰ですか。（2020年 埼玉県公立入試 類似）

1. 推古天皇
2. 卑弥呼
3. 持統天皇
4. 北条政子

問12　弥生時代に大陸から伝えられた金属器のうち、銅鐸や銅剣などの青銅器は、主にどのような目的で使用されていたと考えられますか。（2019年 徳島県公立入試 類似）

1. 都の東西に置かれた市で、布や米と交換される通貨として用いられた
2. 土地を耕したり木を加工したりする実用的な工具として用いられた
3. 集団の祭祀や祭りの道具として用いられた
4. 食物を煮炊きしたり、貯蔵したりするための生活容器として用いられた

問13　弥生時代に稲作が広まったことで、土地や水をめぐる争いが起こるようになりました。集落を外敵からの攻撃から守るために、周囲に深い堀を掘り、木の柵を設置した集落を何と呼びますか。（2024年 沖縄県公立入試 類似）

1. 三内丸山遺跡
2. 石舞台古墳
3. 高床倉庫
4. 環濠集落

問14　弥生時代、稲作が西日本から東日本へと普及して食糧の蓄えができるようになると、各地で土地や水をめぐる争いが起こり、小さな国々が誕生しました。こうした中、倭の奴国の王が中国の王朝へ使いを送った目的や背景として最も適切な説明を選びなさい。（2022年 広島県公立入試 類似）

1. 中国の後漢の光武帝から金印を授かることで、自らの支配の正当性を背景に権力を強めようとした。
2. 鉄製農具や須恵器の製作技術を独占し、縄文時代から続く狩猟・採集の生活をより豊かにしようとした。
3. 巨大な前方後円墳を築造するための最新技術を導入し、日本列島全体の統一を早急に成し遂げようとした。
4. 土偶を用いた独自の祭祀を中国に認めてもらうことで、大陸での宗教的な影響力を拡大しようとした。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 狩猟や農耕の様子が描かれた、祭祀に用いられた銅鐸である	釣り鐘状の青銅器は銅鐸と呼ばれ、弥生時代の文化を象徴する遺物です。銅鐸の表面には、当時の人々が狩りをする姿や、高床倉庫、稲作の様子などが浮き彫りで描かれているものがあり、文字のない時代の生活を知るための重要な手がかりとなっています。縄文時代の土偶や、古墳時代の鉄製武具とは時代や特徴が異なります。
問2	答え 1 豊作を祈る祭りなどのために、青銅器である銅鐸が使われた	稲作が始まり、金属器が使用され始めたのは弥生時代です。この時代には、実用的な鉄器とともに、祭祀用として銅鐸などの青銅器が作られました。土偶は狩猟採集中心の縄文時代、埴輪は古墳時代、富本銭は飛鳥時代のものです。
問3	答え 1 漢（後漢）	1世紀半ばにあたる57年に、倭の奴国の王が中国の王朝である「漢（後漢）」に使節を送り、光武帝から金印を授けられたことが、中国の歴史書である『後漢書』東夷伝に記されています。この金印は、江戸時代に現在の福岡県にある志賀島（しかのしま）で発見され、「漢委奴国王」という文字が刻まれていました。
問4	答え 4 中国の皇帝から王としての地位を認められることで、国内の統治や周辺諸国との関係を有利に進めるため	当時の倭（日本）は多くの小国が分立し、争いが続いていた時期でした。邪馬台国の女王である卑弥呼は、当時の中央アジアから東アジアにかけて強大な勢力を持っていた魏の皇帝に朝貢し、自らを王として承認（冊封）してもらうことで、その権威を背景に国内の連合体制を強化しようと考えました。これは、中国の皇帝を中心とした国際秩序を利用した外交政策の一環です。
問5	答え 3 鉄器	大陸から伝わった金属器には鉄器と青銅器がありますが、その性質の違いによって用途が分かれていました。青銅器が主に祭りや儀式の道具として用いられたのに対し、鉄器は木材を加工する工具や、土地を耕すための農具、戦いのための武器といった実用的な用途で使われました。これにより食料の生産力が大幅に向上しました。
問6	答え 4 石包丁	弥生時代に稲作が本格化する中で、収穫用具として石包丁が誕生しました。石を磨いて作られた磨製石器で、穴に紐を通して指に固定し、手のひらで包むようにして稲の穂を一つひとつ摘み取る「穂首刈り（ほくびがり）」が行われました。のちの時代に鉄製の鎌が普及するまでは、この石包丁が収穫の主役でした。
問7	答え 4 鉄器は鋭さや硬さを活かして農具や武器などの実用に供され、青銅器は主に祭りの道具として使われた	鉄は青銅よりも硬くて丈夫であるため、木製農具の先を補強する工具や、鋭利な刃物としての武器といった実用的な道具に用いられました。一方で、青銅器は独特の光沢を持つことから権威の象徴や祭りにおける神聖な道具としての性格を強め、鉄器と青銅器で「実用」と「儀礼」という役割の分担がなされました。
問8	答え 2 骨に武器による殺傷跡があったり、本来あるはずの頭部がない状態で発見されたりすること	弥生時代の遺跡では、戦いによって傷ついた人骨や、鋭利な道具で切断された跡がある人骨がしばしば発見されます。これは、土地や水をめぐる「争い」が社会的に定着したことを示す考古学的な証拠です。銅鐸は祭りや儀式に用いられた道具であり、争いの直接的な証拠ではありません。また、古墳に埋葬されるようになるのは後の古墳時代の特徴であり、弥生時代の争いの証拠とは区別する必要があります。
問9	答え 3 中国の皇帝から地位を認められることで、自国の権威を高め、周囲の国々に対して有利に立つため。	当時の日本（倭）は100余りの小国に分かれて対立しており、奴国のような小国の王は、強大な勢力を持つ中国（後漢）の皇帝に朝貢（貢物を届けること）して「臣下」としての形をとることで、自らの支配の正当性や地位を国際的に裏付けてもらおうとしました。福岡県の志賀島で見つかった金印は、このような当時の国際関係（冊封体制）の実態を象徴する資料です。
問10	答え 3 高床倉庫	弥生時代に稲作が普及すると、人々は安定して食料を得られるようになり、定住生活が進みました。これに伴い、余剰となった収穫物を保存する専用の施設が必要となり、高床倉庫が作られるようになりました。住居として使われた地面を掘り下げた構造の「竪穴住居」とは、その役割と構造が明確に区別されています。
問11	答え 2 卑弥呼	3世紀の日本について記した中国の歴史書『魏志倭人伝』によると、卑弥呼という女王が邪馬台国を統治していたとされています。彼女は魏の皇帝から「親魏倭王」という称号や金印、多数の銅鏡などを授かり、自らの権威を国内に示すとともに、外交的な地位を確立しました。
問12	答え 3 集団の祭祀や祭りの道具として用いられた	弥生時代に鉄器とともに大陸から伝わった青銅器は、鉄器が武器や工具として実用的に使われたのに対し、銅鐸や銅剣などは音を鳴らしたり飾ったりする祭礼用の道具として用いられました。稲作の普及にともない、豊作を祈るなどの集団の儀式が重要になった背景があります。なお、食物を煮炊きする道具としては、この時代は弥生土器が、のちの時代には須恵器などが用いられました。
問13	答え 4 環濠集落	弥生時代には、食料の備蓄や土地の所有をめぐって集落間での争いが生じました。そのため、集落の防御機能を高めるために周囲を堀や柵で囲む工夫がなされました。代表的な遺跡として、佐賀県の吉野ヶ里遺跡が有名です。
問14	答え 1 中国の後漢の光武帝から金印を授かることで、自らの支配の正当性を背景に権力を強めようとした。	弥生時代の日本では、稲作の普及に伴って貧富の差や対立が生まれ、各地に小国が形成されました。1世紀の57年、倭の奴国の王は中国（後漢）の光武帝に使者を送り、「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けられました。これは、当時文明の進んでいた中国の皇帝に認められることで、他の小国に対する優位性を保ち、自らの支配権を強化する狙いがありました。選択肢にある鉄製農具や須恵器の普及、前方後円墳の築造は後の時代の特徴であり、土偶は縄文時代の文化です。